

病院長就任のご挨拶

病院長 木内 博之



2023年4月1日より病院長を仰せつかりました木内博之でございます。私は、2005年に脳神経外科教授に就任し、脳血管障害や脳腫瘍の外科治療を担当して参りました。また、2013年から2年間、院内感染対策管理責任者を、2015年より副病院長として病院再整備、医療安全管理責任者を担当し、この度、病院長を務めさせていただくこととなりました。榎本前病院長はじめ、歴代の病院長が築かれた高度医療ならびに医療の質と安全の体制をさらに向上するよう努めて参る所存です。何卒よろしくお願い申し上げます。

さて、山梨大学医学部附属病院は、本年、開院40周年を迎えます。これまで、県内唯一の大学病院として、多くの人材を輩出し、明日の医療につながる研究を推進するとともに、特定機能病院として、県民の皆様に先進的医療を提供しております。今後、病院の基本理念である「すべての患者さんに安心を」のもと、高度医療の中核として、患者さんに良質で最適な医療を提供するとともに、人間性豊かな医療人の育成と臨床医学の発展に貢献すべく、以下の事項を重点的に取り組んで参りたいと存じます。

1. 安全で質の高い医療

当院は、山梨県の特定機能病院として、安全を担保しつつ高度な医療を提供していかねばなりません。今後も安全第一でさらなる推進に努めて参ります。昨年、当院は日本医療評価機構の病院機能評価（一般病院3）を受審し、最高水準の成績で認定を受けることができました。受審に向けて病院がワンチームとなり真摯に対応した結果だと思えます。中でも病院機能改善検討委員会の果たした役割は大きかったと感じております。これからも、この院内横断的組織でPDCAサイクルを回して更なる機能改善に努めて参ります。

2. 高度医療の推進、救急医療の拡充と地域連携の強化

当院には、2台の手術用ロボットダビンチをはじめとして、先端的な医療機器が整備されています。県内の需要を正確に分析し、必要な高度医療の導入を検討します。また、県内の救急医療体制に鑑み、当院に急性期医療を集約することも方向性の一つであろうと考えております。回復期・慢性期機能を担う地域の医療・介護機関との連携を拡充し、将来的には救急枠の拡大や北米型ERの導入も視野に入れ、山梨県の救急医療の一層の充実を図ります。

(次項につづく)

3. 持続可能な医療提供体制

当院は新型コロナウイルス感染症が発生した当初から、率先して患者を受入れ、救命に努めて参りました。また ICT を活用した健康観察システム (SHINGEN) の開発による療養体制の効率化と安全性への貢献、ドライブスルーなどの PCR 検査、ワクチン接種への貢献と体制強化、医療者の宿泊療養施設や域外広域派遣への積極的参画など、新型コロナウイルス感染症対策において山梨県と協力して重要な役割を担ってきました。引き続き、新型コロナウイルス感染症の収束にむけた対応を継続しつつ、新規感染症パンデミックを想定した診療体制の構築も必要と考えます。手術後や重症患者の入院集約化も重要な課題です。ICU の積極的活用が一般病棟の負担軽減に繋がってはおりますが、稼働率の上昇や共通病床の拡大による疾患の多様化など、現在も一般病床の看護体制に負担を強いていることも否めません。高度治療室 (HCU) の設置など重症度を考慮した看護体制への移行も重要と考えております。

4. 効率の良い医療

2024年の医師働き方改革へ向けて、当直体制の見直しが進められ大筋の方向性が決まりましたが、診療の標準化など安全を担保した医療の効率化とタスクシフトによ

る業務軽減が急務です。また特定行為認定看護師の育成のみならず勤務環境の充実も図って参ります。

5. 職員満足度の向上

豊かな人間性と倫理性を備え、広い知識と深い専門性を有して、地域社会・国際社会に貢献できる人材を養成する教育・研究の遂行が本学の理念です。そのためには、教育システムの拡充と深化が求められます。臨床教育部を中心として職員全体のキャリアアップを図り、職員が安心して働ける環境を提供し、離職率を減少させたいと考えております。

6. 再整備と収支計画

この度、診療支援棟が竣工し、現在、外来機能強化棟の新築を計画しております。この再整備を遂行するには健全な財政基盤が求められます。借入金の返済を考慮すると本年度以降も増収を是非とも成し遂げなければならない状況であります。

以上の取り組みにより本院の理念である「すべての患者さんに安心を」を実現させ、そして、すべての職員が満足できる病院を目指したいと思っております。

職員の皆様方の一層のご支援をお願い申し上げます。





病院職員の皆様、こんにちは。前病院長の榎本でございます。この度2年間の任期を終え、病院長を退任いたしました。皆様のご尽力、ご支援により「コロナと一般医療を両

立し、日本トップクラスの大学病院になり外来棟を新築する」という目標を達成し、木内病院長を始め次の皆様に無事にバトンタッチできましたことを心より御礼申し上げます。

2年前の病院長就任時、当院は国立大学病院の中で最低レベルの診療収益となっておりました。これは私たち一人ひとりの努力や能力が足りないためではなく、患者さん中心のチーム医療が効率的に行われていないためであり、その根本原因は20年来の病院理念「一人ひとりが満足できる病院」の精神が曖昧となり「自己満足」になりがちになっていたことでした。そこでまず数字やお金の対策ではなく、私たちの目指すものを「すべての患者さんに安心を」とし、これに向かって病院全体が「ひとつのチーム」となって「安全な医療、親身な笑顔、先進的技術」で患者さん中心の高度医療、そしてコロナ医療に取り組む理念を徹底的に皆様と共有させて頂きました。

その上で病床運用、ICU、ER、手術部、CT、AG室の整備など数え切れない取り組みにより病院運営の根本的な改革を行いました。その結果、当院の診療実績は劇的に向上し、わずか1年あまりで入院収益、業

務黒字が全国の大学病院でトップクラスとなる「前代未聞、空前絶後」の成果をあげ、2年間の増収額は約140億円に達し全国の大学病院から注目されるとともに、文科省より念願の外来棟新築の許可を頂きました。これは本当に誇るべきことだと思います。同時に島田前学長の陣頭指揮のもと、ワクチン、宿泊療養、SHINGENシステム、コロナ病棟など、コロナ対策も全国の大学病院でトップクラスの活動を行い、山梨県のコロナによる死亡率は全都道府県で一番低いレベルとなりました。さらに昨年は約1700名の全病院職員に一律に10万円のコロナ診療手当を支給することもできました。

これらのことはすべての病院職員の皆様が「患者さんに安心」を届けるために「ひとつのチーム」となって努力した結果です。これからも山梨大学病院が地域の高度医療の中核として、病に苦しむ患者さんのいない社会の実現に向かってますます発展することを確信しております。

私は4月より、山梨大学を中核とした地域医療連携強化のため地方独立行政法人大月市立中央病院理事長に就任するとともに、大学病院に設置された東部地域医療教育センターのセンター長・特任教授、そして消化器内科の特命教授などを務めさせて頂いております。どうか今後ともご指導、ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

2年間本当にお世話になりました。皆様に心より感謝申し上げます。病院長退任のメッセージとさせていただきます。

退任あいさつ

前医学域事務部長 野中 昭彦



昭和57年4月、田舎育ちの18歳の私は、当時唯一の財産で購入したばかりのセリカLBで通勤できることがただ嬉しく、附属病院開院を翌年に控え活気に溢れる山梨医科大学会計課から社会人としての第一歩を

踏み出しました。知識も常識にも乏しい私のような若造に、親身になり優しく、時に厳しく接してくれた先輩方や、今日に至るまで関わってくださったお一人おひとりの顔が浮かびます。41年の歳月に培った全ての人との繋がりが、お蔭様で私のかげがえのない財産となりました。大変お世話になりました。

島田前学長、榎本前病院長の舵取りの手腕を間近に学び「業務運営の改善及び効率化」の項目で、全国83法人の中で唯一、最高評価である「特筆すべき進捗状況にある」と評価された島田船長の航海に医学域事務部長として乗り合わせできましたことは、この上ない幸せでありました。コロナ禍の3年間ではありましたが、それ故の貴重な体験もできました。

雑草も春にはちゃんと芽吹いて自分の花を咲かせます。踏まれてもなお伸びようとする草の芽に私は己もそうありたいと願います。これからは、山梨医科大学・山梨大学で受けた恩恵を改めて胸に刻み、何よりも愛すべき山梨大学の更なる繁栄を近くで見守りながら、山梨県東部地域の医療体制の充実を図るため、雑草のごとく力一杯精進して参る所存です。

ありがとうございました。

退任あいさつ

前医学域長・前医学部長 平田 修司



私は、本学の前身である山梨医科大学で学び卒業した後、山梨医科大学附属病院に入職致しました。それ以降、附属病院ならびに医学部で臨床、教育、研究に従事して36年が経ちました。思い返せば入

職当時は他者の評価に迎合しないずいぶん「尖った」生き方をしており、それは、臨床医あるいは医学研究者としてはまったく不適切なものでした。加藤順三初代教授をはじめ産婦人科学講座の諸先輩方や病棟の看護師をはじめとする病院職員および医学部職員の皆様から、厳しくご指導をいただき、さらには、患

者さんやその家族の皆様と真摯に接してきたことで、産婦人科医、生殖医療の研究者としての知識と技術を習得させていただきました。また、人格的にも臨床医、医学研究者に相応しいように成長させていただけたように存じます。その結果として、2009年より産婦人科学講座の教授として、また、2021年より医学部長として産婦人科の診療、教育ならびに研究に邁進することができました。退職にあたりまして、この36年間、ご指導、ご協力をしてくださいました諸先輩、同僚、そして後輩の皆様から心から感謝申し上げます。

36年間、ありがとうございました。



退任あいさつ

前栄養管理部長 小林 貴子



皆様のサポートをいただき、令和5年3月31日、無事に定年退職を迎えることができましたことを深く感謝申し上げます。

平成7年11月に山梨医科大学附属病院医事課栄養管理室に採用され、平成25年4月より栄養管理部長の重責を務め

させていただくこととなりました。平成27年12月には、再整備1期棟1階にて新厨房の運用が開始されましたが、設計段階より関わり、概算要求のため文部科学省に説明に行かせていただくなど、大学病院勤務を振り返り、とても良い思い出となりました。

栄養部門業務は、給食管理業務と栄養管理業務に区分されます。本院では、開院当初より入院患者に対し治療の一環として食事を提供する給食管理を重要視し、入院中の食環境向上のた

め、病棟カフェテリア・行楽弁当・特別メニュー食の考案などを栄養士・調理師で協力し実施してきました。さらに院内トリアージ訓練時には、10年間「炊き出し訓練」を実施したり、地域連携として県内のケーキ店と協力し、低カロリーと美味しさにこだわった「80kcal ケーキ・ヴァニージュ×ショコラ」の作製に関わったりいたしました。しかしここ数年は、診療報酬改定により、入院基本料の栄養管理体制の構築や各医療チームへの管理栄養士の参画が求められ、院内における栄養管理部としての役割も見直されてきました。令和4年度の診療報酬改定にて新設された病棟専従管理栄養士配置「入院栄養管理体制加算」取得を目指し、令和5年度からは、5名の管理栄養士が増員されました。新体制の栄養管理部が、病棟にて更に飛躍できることを期待しています。

長い間、大変お世話になりました。ありがとうございました。

退任あいさつ

前臨床検査技師長 多田 正人



令和5年3月31日付で定年退職いたしました。昭和60年4月に山梨医科大学病院検査部へ就職してからいつの間にか38年が過ぎ、その間、公私にわたり多くの皆様にお世話になり、深く感謝申し上げます。

退職までの5年間は、臨床検査技師長を務めさせていただきました。不慣れな私でしたが、検査部のスタッフをはじめ診療科の先生や看護師、事務の方々など多くの皆様のご支援により、無事務めることができました。この場をお借りし、心より感謝申し上げます。管理業務とともに現場での検体検査業務も行い、充実した日々でした。臨床検査技師長として、臨床検査室における品質と能

力に関する国際規格「ISO15189」認定を取得してからも品質保証の取り組みに力を注ぎました。また、中央診療棟の再整備工事において、検体搬送システムおよび分析装置の移設準備、検査結果報告の迅速化や採血室の待ち時間短縮への取り組みなども微力ながら本院へ貢献できたと思っております。一方、新型コロナウイルス感染拡大により、医療現場は医療崩壊にも陥りかねない危機的状況を経験した中で、PCR検査を積極的に実施できたことは、検査部全職員が一丸となって日常業務に取り組んだ結果と感謝いたします。

なお、後任には風間文智が就任しましたので、皆様のご支援を賜りますようお願いいたします。

最後に、職員皆様のご健勝、ご活躍と山梨大学の更なる発展を祈念いたしまして退任の挨拶とさせていただきます。長年にわたりお世話になり、ありがとうございました。

退任あいさつ

前看護師長 中嶋 君枝



「死は理不尽だが平等で、人は死ぬために生きるのではなく、最期まで生き抜くために生きている」最期までその人らしく生きることが、緩和ケアの使命だと私は考えております。

昭和58年4月に看護師となり、当院の最後の研修生として滋賀医科大学医学部附属病院に就職しました。昭和60年に山梨に戻り、現在に至っております。新人の頃、数名の終末期の患者さんとふれあい、ターミナルケアに興味を持ち、この病院で緩和ケアに携わってきたことは、本当に幸せなことだと思っております。

当院の緩和ケアは、有志が集まる【緩和ケ

アを語る会】から始まりました。当時、癌は告知しないことが当たり前で、「私は癌ですか?」と尋ねる患者さんにどう対応するのか、皆で思い悩みました。2003年、飯嶋哲也医療チームセンター長、精神科の小林薫先生、井上貴美元副看護部長の3人で緩和ケアチームが発足しました。私もお手伝いをさせて頂きましたが、当時は病棟ラウンドをしても声も掛けて貰えず、依頼もなく、不毛な日々を過ごしたことを今も鮮明に記憶しております。今、緩和ケアチームが活動出来ているのは、病院スタッフの皆様、そしてチームを必要として下さった患者さん・ご家族のおかげだと思っております。

緩和ケアは看護の原点だと思います。出逢って下さった全ての方々に感謝しつつ、これからも当院において、緩和ケアマインドが継承されることを願ってやみません。

令和4年度 医学部離任式

去る令和5年3月31日、退職される方の離任式が挙行されました。

初めに、齊藤総務課長から離任される方の紹介があり、小泉新医学域長・医学部長から永年の功勞に対し感謝の言葉が述べられました。

続いて退職者お一人おひとりからも挨拶をいただきました。式の最後には、在職職員から花束が贈呈され、盛大な拍手でお送りいたしました。



前列左から

多田臨床検査技師長、小林栄養管理部長、榎本病院長、島田学長、平田医学域長・医学部長、三枝講師、遠藤調理師長、島田看護師長

後列左から

大和総務課長補佐、赤池副看護師長、福田学務課専門員、今井技術専門職員、丸山技術職員、中嶋看護師長、小澤看護師長、野中医学域事務部長

通院治療センターが新しく大きくなりました

通院治療センター長 桐戸 敬太

免疫チェックポイント阻害薬や様々な抗体薬の登場。がん薬物療法は、この数年で大きく様変わりをしています。当院でも、外来でがん薬物療法を受ける患者さんの数は急激に増加しており、2022年には年間で述べ7000件の治療を行ってまいりました。一方、これまでの通院治療センターはベッド数が16床であり、効率的な運用と治療件数の増加対応に努めてまいりましたが、限界に達しておりました。この状況に対応すべく、通院治療センターの拡充を行うこととなり、旧リハビリ室を改装し、2023年4月に新たに27床を備えた通院治療センターが開所しました。ベッド数を増やしたのみならず、病



室も全体的に明るくし、1床あたりの面積も広くとるなど、患者さんが安心かつ快適に治療できる環境を整備しております。看護ステーションも島型とすることで、全周性な対応を可能としております。また、感染症対応の専用ベッドも確保しており、COVID-19等の感染症下でもがん治療が中断されないような配慮も行っております。

抗がん剤調整室についても通院治療センターと直結させる構造となっており、調整した薬物の受け渡しや患者さんについての情報共有を効率的に行えるようにいたしました。

さらに、通院治療センター利用者専用の受付ブースや待合室を設置し、患者さんがより利用しやすい環境を整えております。

がん薬物療法を受ける患者さんは、様々な診療科で今後ますます増加することが見込まれており、近々年間1万件を超えることが想定されております。今後も、すべての関係スタッフの協力のもと、患者さんが安全・安心かつできる限り快適にがん薬物療法を受けられることを目指してまいります。

医療の質・安全管理部のご紹介

医療の質・安全管理部長 荒神 裕之

令和5年3月に診療支援棟が新たにオープンしました。医療の質・安全管理部は、感染制御部と共に診療支援棟の4階に移転し、活動を開始しています。今までよりも充実したスペースと外来や病棟に近い効率的な動線により、ミーティングやラウンドが実施しやすくなり、附属病院の安全と質の向上に貢献できると期待しています。令和5年4月から医療安全管理責任者に就任された川村龍吉先生の下、部員も新体制となりました。本格的なポストコロナを迎える附属病院運営の中で、診療支援棟に集う感染制御部や看護部、薬剤部、シミュレーションセンターなどとの協働も図りながら、安

全管理委員会や病院機能改善検討委員会をはじめとする活動を通して、患者と医療者の双方の安全確保や医療の質の向上への取り組みを強化してまいります。



医療の質・安全管理部

令和5年度 新部門長等の紹介

令和5年6月1日現在

病院長・副病院長・病院長補佐・病院長特別補佐

病院長	副病院長						病院長補佐			病院長特別補佐			
	労務管理・保険診療・病床管理	安全管理	再整備	臨床研究・放射線・栄養	看護・患者サービス	総務	臨床研修・癌診療	救命救急	感染	薬剤試験	感染対策	病院経営改善	
木内 博之	波呂 浩孝	川村 龍吉	中島 博之	市川 大輔	村松 陽子	石原 昭	桐戸 敬太	佐藤 明	副島 研造	古屋 塩美	河田 圭司	塩島 正弘	森 琢磨

中央診療部門等

部門名	部長等	副部長等	部門名	部長等	副部長等	部門名	部長等	副部長等
検査部	井上 克枝	高野 勝弘 風間 文智	医療チームセンター	飯嶋 哲也		薬剤部	川村 龍吉	橋田 文彦 小林 みわ子
手術部	石山 忠彦	矢崎 正浩	生殖医療センター	吉野 修		総合支援部	波呂 浩孝	三井 貴彦 市川 二郎 北井 朋美
放射線治療部	大西 洋	小宮山 貴史	肝炎センター	前川 伸哉		業務支援センター	三井 貴彦	
放射線診断部	森阪 裕之	荒木 拓次	口腔インプラント治療センター	上木 耕一郎		医療福祉支援センター	三井 貴彦	市川 二郎
放射線技術部	相川 良人	池川 博昭 鈴木 秀和	遺伝子疾患診療センター	石黒 浩毅	矢ヶ崎 英晃	入退院支援センター	市川 二郎	
材料部	櫻井 大樹		循環器救急センター	佐藤 明	中島 博之	総合がん診療部	市川 大輔	桐戸 敬太
輸血細胞治療部	井上 克枝	高野 勝弘	リウマチ膠原病センター	波呂 浩孝	川村 龍吉 中込 大樹	がん相談センター	市川 大輔	
救急部	森口 武史		アレルギーセンター	櫻井 大樹	中尾 篤人 三井 広 松岡 伴和	腫瘍センター	石黒 浩毅	
集中治療部	森口 武史	後藤 順子	IVRセンター	荒木 拓次	岡田 大樹	臨床教育部	板倉 淳	
新生児集中治療部	犬飼 岳史	小鹿 学	てんかんセンター	加賀 佳美	荻原 雅和	臨床研修センター	板倉 淳	矢ヶ崎 英晃
病理部	近藤 哲夫	望月 邦夫 中澤 久美子	産前産後ウエルビーイングセンター	石黒 浩毅	奥田 靖彦	専門医キャリア支援センター	土屋 恭一郎	大森 真紀子
分娩部	奥田 靖彦		脊椎脊髄センター	波呂 浩孝	大場 哲郎 八木 貴	臨床実習センター	鈴木 章司	川端 健一
リハビリテーション部	波呂 浩孝	八木野 孝義	医療情報部	森口 武史	小林 美亜	特定行為研修センター	波呂 浩孝	
血液浄化療法部	澤田 智史	後藤 順子 内村 幸平	病院経営管理部	木内 博之	小林 美亜	シミュレーションセンター	板倉 淳	針井 則一
光学医療診療部	高野 伸一	小林 祥司	栄養管理部	土屋 恭一郎		医療スタッフ研修センター		三平 まゆみ
総合診療部	針井 則一		医療の質・安全管理部	荒神 裕之	青木 真里	山梨県地域医療支援センター	木内 博之	大森 真紀子
臨床研究連携推進部	木内 博之	佐藤 金夫	感染制御部	井上 修	窪川 佳世	東部地域医療教育センター	榎本 信幸	山口 達也
臨床工学部(IGMEセンター)	中島 博之	望月 仁						

看護部

看護部長	副看護部長					
	総務・労務担当	人事・診療報酬担当	教育担当	業務担当	質保証担当	総合支援担当
村松 陽子	大門 恵美	杉田 俊江	杉山 千里	小泉 夫美子	伊藤 雅美	北井 朋美

部門名	看護師長	副看護師長	部門名	看護師長	副看護師長
医療の質・安全管理部	青木 真里	大久保 香織、小野田 麻由美	ICU病棟	鈴木 聖美	渡邊 裕美、小倉 幸子、近藤 健、原 愛美
感染制御部	窪川 佳世	入倉 悠	NICU病棟	萩原 千代子	清水 陽子、鷹左右 直美
総合がん診療部	大芝 まゆみ	青柳 しづか	GCU病棟	寺島 由美子	杉本 美貴、中込 美幸
通院治療・放射線部・がん相談	金丸 明美 武田 陽子	堀井 悠	2階西病棟	岩澤 久美	三枝 栄江、東雲 由希、茂手木 智美
医療チームセンター	山本 智子		3階西病棟	金丸 紀子	浅野 ともみ、長田 和子、木村 慶太
病院経営管理部	山本 智子		4階西病棟	伊藤 由香	小林 可奈子、山本 瑠美、田草 裕美子
医療情報・診療報酬	山本 智子		5階西病棟	磯野 絵美	大村 希依、渡邊 祐将、橋本 佳奈子、川口 優里奈
臨床研修連携推進部	永田 明子		6階西病棟	牧野 基美	後藤 詩乃歩、名取 佐知子、石坪 真佑見
治療センター	永田 明子		7階西病棟	内田 純子	高橋 真貴、庭山 梢、八巻 真美
教育担当	茶谷 直子	織田 茉莉恵、土橋 怜奈、保坂 美佳	4階南病棟	櫻本 かおり	齋藤 渚、伊藤 祥子、上原 良江
臨床教育部	連沼 知津子		5階南病棟	高橋 里香	深沢 泉、清水 美紀、神宮司 文
シミュレーション研修・実習指導	連沼 知津子		6階南病棟	穴水 美和	青木 絵梨子、野澤 ゆい、松田 旬美
臨床教育部	三平 まゆみ	牛山 佳菜、長澤 美佐子、坂本 友紀、日向 恵	7階南病棟		
特定行為研修	三平 まゆみ		4階北病棟	竹田 礼子	望月 文香、手塚 浩美、長澤 良美
総合支援部	河西 典子	手塚 絵里子	5階北病棟	田邊 玲子	中柄 創和、山中 浩代、望月 あゆみ
入院支援・病床管理	河西 典子		6階北病棟	谷戸 るみ	秋山 友梨、市川 さやか、青柳 恵子
総合支援部	松土 裕子	藤原 由理香、弦間 まみ	7階北病棟	金子 春美	辻 稔、小林 ひとみ、相川 真弓
総合支援部	松土 裕子				
退院支援・医療福祉	松土 裕子				
総合支援部	山本 秀美				
働き方支援・業務改善	山本 秀美				
再整備・業務改善	山本 ゆかり				
手術部	矢崎 正浩	土屋 一枝、小池 美和、溝口 真由美、興水 めぐみ			
材料部	渡邊 理映子				
ER(内視鏡・アンギオ・透析)	戸栗 宏子	佐野 敦史、山本 雅弘、大沢 有紀			
外来A(診療科外来)	坂野 雅子	神田 藍、溝川 由香里			
外来B(診療科外来・採血・生殖)	大森 ゆかり	望月 沙織、粕山 史穂			

事務部

医学域事務部長	課・室名		課・室長		補佐・専門員	
	石原 昭	医学域総務課	齊藤 敦	狩集 広行、山中 章平、武井 幸子、小林 静	医学域医療支援課	根本 栄一
医学域学務課		仙洞田 潤	加賀美 知美	病院経営企画課	京島 信昌	
医学域管理課		萩原 正直	長濱 裕介、山本 明美、浅川 弘一、海老名 庸	医療情報課	浅川 辰仁	
医学域医事課		有野 佳江	井上 心、弦間 芳典	医療情報企画室	山本 洋一	